

KURA インタビュー 第4回 村本健一郎 先生

金沢大学学術機関リポジトリKURAは、公開されてからすでに4年以上が経過し、登録された著作は2万件を突破しています。

今回は、国際オープンアクセスウィーク2010に合わせ、歴代ダウンロードトップ20の著作から、数名の先生にインタビューを行いました。

第4回となる今回は、理工研究域電子情報学系 教授の村本健一郎先生です。



先生の著作はこちら

村本, 健一郎, 「人工衛星データ活用のための東アジアの植生調査」, 平成14年度-平成17年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 研究成果報告, 2006

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/3269>

[→ 村本先生の研究室「画像・生命情報工学研究室」のサイトはこちら]

[→ 「EMEAプロジェクト」についてもっと知りたい方はこちら]

◇ 研究内容について教えてください。

これは、EMEAプロジェクト (Environmental Monitoring in East Asia Project) の一部で、自然環境、特に森林の環境調査についての研究です。1991年から科学研究費補助金により研究を続けております。

人工衛星を使ってより正確に、広範囲の森林の現況調査をできるようにしようというのが研究の目的です。森林地帯は人が入って細かく調査するには限度がありますので、広い範囲を一度に観測することができる人工衛星のデータを使って調査できればとても役立ちます。人工衛星に搭載されたセンサは可視光線以外の波長もとらえていますから、分析すればさまざまなデータを画像としてみる事ができます。

この研究では、人工衛星に搭載されてセンサから捉えられたデータに対して、地上では実際にはどうなっているのかを調べるために人工衛星搭載センサと同じ波長のスペクトロメータを使って地上計測を行い、両者を比較することにより、衛星データを使った観測精度の向上を目指しております。ですから、森林地帯に実際に行き計測したり、ヘリコプターから計測したりということもしております。この研究の調査地域は東アジアとしており、韓国や中国、台湾、ロシアの中で、近年森林環境が変化していると言われている地域の森林の一部を調査しました。最近では人工衛星の画像の解像度もよくなりましたので、ヘリコプターでの調査についてはしなくて済むようになりました。

将来は人工衛星データだけで環境の実態を知ることができるようになれば、様々な分野に役立つことができるでしょう。



◇ この研究を始められたきっかけを教えてください。

金沢は世界でも珍しい四季の変化に富んだ街で、夏は海水浴、冬はスキーが両方とも楽しめるところです。私も楽しんできました。それに、昔から山登りが好きで、日本百名山の半分以上に登ってきました。その中で、最近森林の荒廃が気になっておりました。

このように自然に触れてきたのが、きっかけの一つでしょうか。

研究内容を一般の方に発信することも必要と考えております。そのためのひとつとして、「金沢大学フェスタ2010」に有志で「地球のみかた ～くらしにつながる地球環境研究～」の展示を計画しております。[→ 展示内容はこちら (PDFファイル)]

◇ アクセス元を調べてきました。ご覧になってみていかがでしょう？

アメリカや中国など、国土が広いところは人工衛星のデータを使いますからね。
…やっぱり人工衛星の研究をしているところからが多い印象です。

◇ ネットで論文が無料公開されることについては、いかがですか？

もっとKURAIに登録して貢献したいとは考えています。学会でも雑誌の価格が高いとみんな言っています。

とは言いましても、論文をすべて無料電子ジャーナルだけに投稿するというわけにもいきません。ジャーナルの伝統、分野や質、読んでくれる人がどれだけいるのかがやはり大切です。無料電子ジャーナルの価値が上がれば次第にそちらに投稿するようになると思います。

最近はずっと図書館に行かなくなりましたね。文献を探すのも論文を読むのも、ネットで大抵のことはできてしまいます。図書館の役割が変化してきているのは感じています。もちろん機関リポジトリが大事なのも分かっていますよ(笑)。

あと、感じているのは、ネットで色々出来るようになってきたからか、何でも急ぐようになってきたことですね。のんびり文献複写が届くのを待つのではなく、よく似た論文がないか探したりしています。この頃は題名で検索するとかなりのものは読むことができるようになってきたと思います。

(インタビュー: 2010/10/28)